# 通級指導教室での学びをつなぐ取組

丹波篠山市立岡野小学校
教諭　青木　良人

## １　取組の内容・方法

学校生活支援教員の立場を担って８年間が経過しようとしている。通級指導担当として、その対象となる児童に応じた指導・支援により通常の学級での学びの素地を作ることが求められている。そのために、在籍学級の担任と連携し、学級での学びを支援することが大切な役割だと考えている。通級教室を利用する児童の多くは、読み書きや計算に課題を抱えている。また、友だちとうまく関われなかったり、気持ちの切り替えに時間を要したりと、人間関係を形成する上で大切となるスキルの運用が困難な児童も少なくない。通級教室での学びが、学級や家庭での生活においても活用できるように支援したいと考えている。

以下に、通級教室での学びを通常の学級につなぐ事例を紹介する。

### （１）「読み書き」に困難さを示す児童をつなぐ

ＬＤ等の診断があり、読み書きに困難さを示す通級対象児童は、その影響から、他の学習活動においても自信をもてずに消極的になってしまうことがある。通級指導においては、自立活動の区分である心理的安定や、健康の保持等から複数の項目を選定し、それらを関連付けて、自尊感情や自己効力感を育むことを意識して取り組んでいる。

流ちょうに音読できない児童、板書を書き写すことに時間を要する児童は、学級での学習活動において、少なからずストレスを感じていると思われる。通級教室で個別に実施した読み書き学習を学級でも継続的に取り組めるよう担任に提案している。

通級対象児童の「読み書き」困難の要因として、見る力や聴く力、集中する力等の弱さが考えられる。心理検査の結果や、担任、保護者からの聴取を基に情報を収集し整理することで、それぞれの児童の特性に基づいた根拠のある指導を行うことに努めている。

以下のような通級での取組を学級においても活用できるよう、プリント等を増し刷りしておき、休み時間やすき間の時間に児童が手に取れるようにしている。

・「見る力」の向上を目指して
視線迷路…それぞれの絵が、どの図形と繋がっているかを視線だけで確認する。
ナンバータッチ…決められた時間内に、数をできるだけはやくタッチする。

写真１　視線迷路

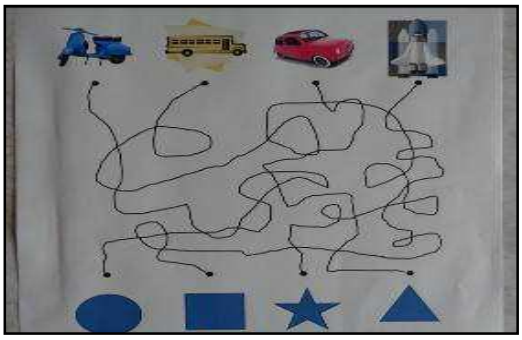
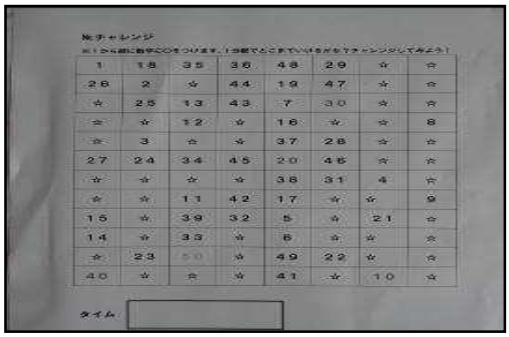


写真２　ナンバータッチ



・「聴く力」の向上を目指して
きくきくドリル…短文復唱や「を」と「お」の聞き分け等の、練習教材。（文英堂
和田秀樹監修　村上裕成著）
音韻すごろく…コマが止まったマスのイラストが示す言葉を構成する音数を手たたきする。

写真３　きくきくドリルの様子

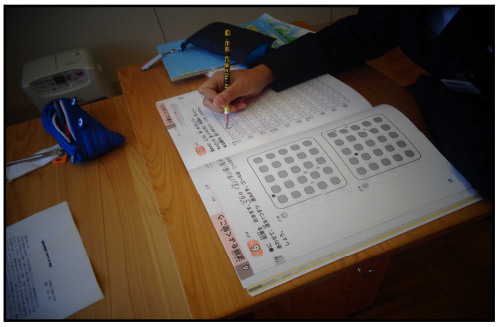
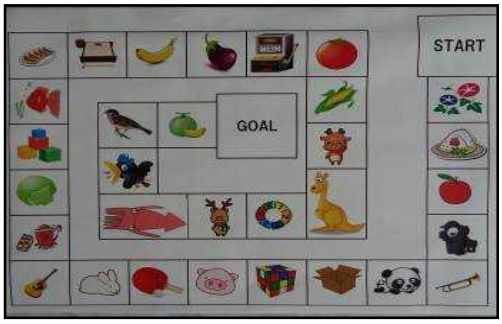


写真４　音韻すごろく




・「集中する力」の向上を目指して
集中トレーニング…３文字言葉、４文字言葉等を設定された時間内にできるだけ多く想起したり、指導者が話す言葉の反対語を記入したりするワーク。
最後しりとりゲーム…五十音のカードを使って行う言葉遊びゲーム。（１分間集中トレーニング　学陽書房　上嶋惠著）

写真５　集中トレーニング

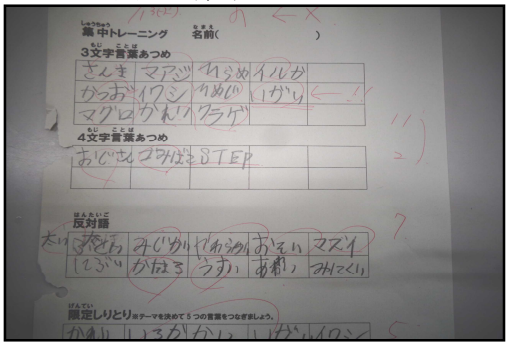



写真６　最後しりとりゲームの様子

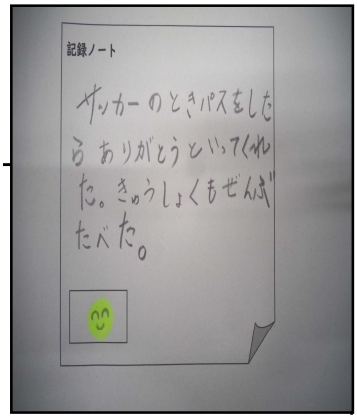
**（２）感情のコントロールに困難さを示す児童をつなぐ**

通級教室には、友だちと関わりたい気持ちは強く持っているが、相手が嫌がっていてもそれに気づかずに一方的な接し方をしてしまい、トラブルを起こしてしまうような、対人関係の構築に課題が見られる児童が多くいる。トラブルを起こす要因として、自分の感情をコントロールするためのスキルをうまく運用できないことが挙げられる。こういった情緒的な課題についても通級教室での個別指導を通じて学んでいるところである。学習場面だけでなく、休み時間や、その他のあらゆる学校生活の場面においても友だちや、先生とうまく関われるようにするための取組を紹介する。

・目標達成シートの教室掲示

集団への適応や、友だちへの配慮のスキルを身につけることを目標にしている児童がいる。自分がどうなりたいかを問い、目標を決定する。次に目標を達成するために取り組む事柄を確認する。そして目標達成シートを通常の学級にも掲示する。

写真７　記録ノート




・生活状況の記録

ＳＳＴやアンガーマネージメント等、集団に適応するために必要なスキルの習得を目指す学習に取り組んでいる。これらの通級教室での学びを、般化させる働きかけとして広く周知されている方法としては、『意図的な場面設定』による成功体験と適切なフィードバックが挙げられる。担任との連携により、これらの取組を実施することに加え、自分自身で、日々の学校生活において通級教室での学びを意識して過ごせるよう、記録ノートを児童に提案した。記録ノートは、一日の生活を自己で振り返り、マーク（良い：黄〇、もう少し：青〇）と一言感想を記述していく。
週に１時間の通級の時間に一緒にノートを見ながら記録を確認している。

・朝会日記

多動性、衝動性の強さから集団での活動に苦手意識が強い A 児の事例である。A はその特性から、初めての場所や人との関わりにおいて、不安感を強く感じる傾向にある。校外学習や、参観日、卒業式等の学校行事の事前には、通級教室にて見通しが持てるよう準備をしている。情緒的な課題が見られる児童への支援を開始するにあたっては、信頼関係を築くことを第一に優先してきた。A児についても同様で、本児の興味関心のあるものを学習に取り入れたり、休み時間や清掃時間を共に過ごしたりすることで、距離を縮めることに努めてきた。朝会日記は、全校生が集う朝会でのＡ児の様子を私が記録したものである。信頼関係を築く上で必要なプロセスとして、支援者から承認されることが挙げられる。認められることで、支援者への志向が高まるものと考える。通級教室にて、朝会日記の記録を基に、朝会の際のＡ児の呟きや行動について振り返り、認める機会とした。担任や、その他Ａ児と関わる先生方とも内容を共有し、Ａ児への関わりにおいて承認することを意識するよう共通理解した。

以下、朝会日記の１頁を紹介する。

９月３日（月）…始業式

校長先生のお話…この夏話題になった３人の写真を見せていただきました。

■■さん・●●さん・▲▲さんについてＡさんは、３人とも何をした人か知っていたようで、それぞれの写真を見るとすぐに、「知ってる！」と大きな声で反応していました。校長先生が「この人知っているかな？」と質問されているので、それに対して反応することは OK です!(^^)！１つ残念な反応がありました…。■■さんの写真が出たときに「はげ頭のじじいやぁ」という声が聞こえました。せっかくよい反応ができていたのにそのような言葉が聞こえてきたのはとても残念です。

保健室の先生のお話…運動会の練習が始まるにあたり、みんなの健康管理のことについてお話ししていただきました。この時も、熱中症のことについて知っていることをたくさんつぶやいていましたね。『知っていることはつぶやきたい』という気持ちはよくわかります。しかし、保健室の先生は、みんなに質問をされたわけではなかったので、そこはじっとがまんして『聴く』ことが大切です。

習字や絵画表彰がありました。その時は、しっかりとお話を聴けていました。友だちが表彰状を受け取っている時も、しっかり拍手ができましたね。

## ２　取組の成果

（１）通級での取組を学級に提案したことで、継続的に「見る」「聴く」「集中する」機会を設けることができた。音韻すごろくや、最後しりとりゲーム等は休み時間に児童が自発的に手に取るようになった。通級対象の児童は、通級教室で学習したことを学級の友だちと一緒に取り組むことに喜びを感じていた。中には、得意げにゲームのルールを友だちに教えている児童もいた。授業の開始前に、集中トレーニングやきくきくドリルに取り組むことで、集団の学ぶ姿勢が整い、注意集中に課題がある通級対象児童も聞き漏らしが少なくなった。学びの素地となる力を向上させるための有効な手段であったと捉えている。

（２）落ち着きがなく、何にでも首をつっこむタイプの子どもは、思いついたら待てないところがあり、そのことで何回も叱られてしまう。A児もまさにこんなタイプであった。

「ねえ、どうしてそんなことするの？さっき約束したばかりでしょ。何度言ったらわかるの？」このような厳しい問い詰めは、実際、効果がほとんどなかった。指導・支援する立場として、感情のコントロールや気持ちの切り替えが苦手な児童の行動のどんな部分に着目しているか振り返ってみることが大切である。授業からの逸脱的な行為を「問題行動」としてとらえてしまうと、どうしても叱責する場面が増えてしまう。子どもは、先生から認めてもらえないと感じると意欲を低下させ、時に先生に向けて反発をあらわにするものである。

本レポートで紹介した取組は、その子が好ましい行動をとっている時に着目することを心がけた実践である。これらの実践を通して、言い聞かせて行動を修正させようとするよりも、好ましい場面をとらえて認め、その場面を増やすという発想が大切であり、児童の行動を変容させるために不可欠であると確信できた。

## ３　課題及び今後の取組の方向

丹波篠山市においては、平成 29 年度より個別の教育支援計画に、合理的配慮の観点を示すよう定められた。岡野小学校では、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成にあたり、複数の職員が話し合いをしながら取り組んでいる。通常の学級で実施する配慮の在り方として、担任の負担感も少なく、それでいて理にかなった配慮が提供できることが大切だと考える。一人では見えなかった支援も連携することではっきり見えることがある。

通級指導担当としての「気づき」を大切に、子どもたちが楽しく学べる環境を整えていきたい。